

傷から流れる

森川雅美

私たちが静かな傷としてここに
あるいくつかの小さな影
かの夢と並び筆笥の表に刻
まれ小さい風の
になるであらう光となりこれ
はいつの風
に繋がる破片なのかと突き付
けられる幾
つもの思い出は本当に静かな
日日からも
外れてしまおう悲しみの歪む
箏笥の内側へ
と砕け忘却されるいくつかの
消滅の影に
届き後姿の人に追われつづ
ける面影の静
寂と思い出なのかとやや躓
く足先や私た
ち静かな傷としてひどく窪
む地に晒され
る置き去られる箏笥の畔へ
小さな影の過
っていく陽光の緩み内側
から浮き出す破
片をなぞる指先も突き付け
られる形のま
ま失われた続きへと静かな
縁をなぞるの
だと開く悲しみの歪むさざ
波の箏笥を支
え思い出を越えて突き抜
ける日日の深い
後姿の人に追われ育つてい
く影を点点と
刻まれる網膜の内兆す明る
さ